

子どもの笑顔が輝く学校

川西町立小松小学校

小松小学校は、明治4年9月に、郷校を上小松大円寺に『小松学校』として開き、今年度創立143周年を迎えました。県内でも有数の歴史と伝統のある学校です。

今年度4月から使用している新校舎は、温かみのある木材がふんだんに使用され、中廊下は採光を兼ねた吹き抜けの広い空間が特徴的です。広々とした廊下やスペースは、読み聞かせや学年集会等で活用することができ、学習の場が広がりを見せています。このような素晴らしい校舎で、「かしこく・やさしく・たくましく・そして小松が大好き」な子ども達を目指し、これまでの長い歴史の上に、新校舎と共に新しい歴史を積み上げていきたいと考えています。

読書大好き、小松っ子

子どもと担任が一緒に読書に親しむ時間を設けたり、地域や保護者の方々による読み聞かせをしたり、家庭での親子読書を行ったりするなど、多様な方法で読書への意欲付けを図っています。



小松が大好きな子に

小松地区の教育環境を活かし地域の方々との交流を通して、郷土に生きる子どもを育てようとして取り組んでいます。川西の花ダリヤの栽培について学んだり、ダリヤ園観光のお客様に小松地区を紹介する手作りパンフレットを配布したりしています。また、置賜農業高校の生徒さんからは、農作物の栽培や収穫について学んだり、野菜の販売体験をさせていただいたりしました。



学び合い、尽くし合い、鍛え合う余目中

庄内町立余目中学校

本校は、庄内平野のほぼ中央に位置し、生徒数477名の歴史と伝統ある学校です。学校像として、「学び合う余目中、尽くし合う余目中、鍛え合う余目中」を掲げて、学習、運動、文化活動やボランティア活動などに熱心に取り組んでいます。

学び合う余目中

授業には落ち着いた態度で臨み、近年は学力も向上しています。特に、3年生は全校のよい手本となっています。今年度はさらに、自分の考えを持ち、発表することに力を入れています。また、行事や生徒会活動でも、後輩が先輩の姿から学び、伝統を伝えています。



尽くし合う余目中

宮城県南三陸町の復興支援

庄内町は東日本大震災の被害を受けた南三陸町と友好町となっています。震災後、復興を応援するために、技術家庭科の授業で栽培したトマトを送り続けてきました。

今年度の3年生は、直接、仮設住宅へ届けに行き、自分の目で見て様々なことを感じるとともに、今後の友好関係のあり方についても考えました。



福祉施設での交流活動や町内美化活動

クラス毎、1年生は老人福祉施設を訪問し、交流活動や清掃作業等を行い、2年生は町内各地でゴミ拾いや草むしり等の美化活動を行いました。いずれも、訪問先の施設や町内の方々から大変喜ばれるとともに、他の人のために活動したことに自分達でも充実感を持つことができました。

鍛え合う余目中

顧問や地域のコーチの熱心な指導のもと、毎日、各々が一生懸命練習に励んでいます。その成果もあがり、毎年100人以上が県大会に出場し、さらに、東北大会、全国大会にも多数の生徒が出場しています。

